

兵庫県における 広域防災拠点等について

兵 庫 県

1 趣旨

災害発生時に救援・救護、復旧活動等の拠点として、被災者用物資等の備蓄機能、救援物資の集積・配送機能、応急活動要員の集結・宿泊・出勤機能を有する広域防災拠点（ブロック拠点）を県内に計画的に配置。

2 配置場所

近い将来の発生が確実視されている東南海・南海地震をはじめとして様々な災害に備えるため、県内に三木全県及び西播磨、但馬、淡路、丹波、阪神南の広域防災拠点の整備を進めてきたところであり、阪神南広域防災拠点の完成をもって、全県整備が完了。

1 広域防災拠点の整備

三木総合防災公園

県立広域防災センター・消防学校(16.4)

西播磨広域防災拠点(H11.3)

但馬広域防災拠点(H13.8)

淡路広域防災拠点(H19.1)

丹波広域防災拠点(H20.4)

阪神南広域防災拠点(H20.4)



広域防災拠点の整備(2)



丹波広域防災拠点

全県拠点(三木総合防災公園)



備蓄機能(1)

備蓄倉庫には、災害発生に備え、被災者用物資として毛布や非常用食料等を救助用資機材としてエンジンカッター、チェーンソー、ボート等を保管。災害による停電時においても自家発電し、事務室に設置したフェニックス防災システム端末等により、通信基地として、県・市町の災害対策本部との連携や物資の配送等を調整。

備蓄物資のブロック拠点別配置数量

平成20年5月



備蓄倉庫



(イメージ写真)

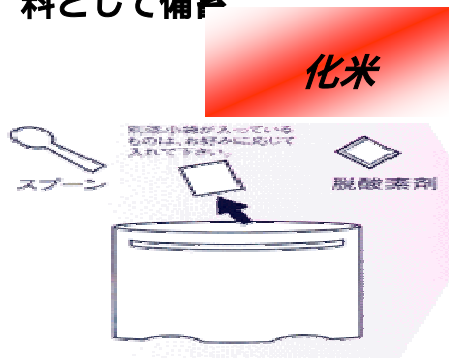
物資種別	拠点名 地域名	総量	ブロック拠点					
			三木 神戸 阪神北 東播磨 北播磨	西播磨 中播磨 西播磨	但馬 但馬	淡路 淡路	阪神南 阪神南	丹波 丹波
倉庫	延床面積 (㎡)	5,000	5,000	1,132	810	810	300	34
	供用開始	H16.4	H16.4	H11.3	H13.8	H19.2	H20.4	H20.4
被災者用物資	食糧 (化米)	100,000	57,000	16,000	4,000	3,000	18,000	2,000
	毛布	66,000	37,620	10,560	2,640	1,980	11,880	1,320
	ブルーシート	6,666	3,800	1,066	267	200	1,200	133
	仮設トイレ	1,000	770	160	40	30		
	仮設風呂	24	15	3	3	3		
資救助機材用	人命救助システム	40	21	7	2	2	7	1
	災害対策用ボート	22	8	4	2	4	2	2
広域防災拠点用資機材	テント	700	400	100	100	100		
	パレット	10,000	7,300	1,600	400	300	400	
	ローラコンベア	40	30	5	5			
	台車	140	80	20	20	20		
	投光機	6	3	1	1	1		
	発電機	6	3	1	1	1		
	フォークリフト	12	5	2	2	2	1	
	要員用仮設トイレ	120	75	15	15	15		
	簡易ベッド	300	150	50	50	50		
	携帯型無線機	12	6	2	2	2		
	衛星携帯電話	12	5	2	2	2	1	
トランシーバ	60	24	10	10	10	6		

阪神・淡路大震災の経験を通じて、平常時からの備えの大切さを再認識。県では、広域的な立場から市町備蓄を補完するため、阪神・淡路大震災時における1日の最大避難者数30万人を基準に、現物備蓄・流通在庫備蓄により、食糧、生活必需物資の供給体制を整備。

1. 食料品

大規模な災害が起こった時には、電気、水道、ガスなど普段、何気なく利用している調理用設備が利用できなくなることが予測される。

そこで、食料品については、保存性に優れ、簡単に調理して口に出来る 化米を10万食、非常用食料として備蓄



化米の特徴

- ・最小限の水量でご飯が食べられ、水分補給ができること。
- ・長期保存(5年)が可能であること。
- ・1食ごとに分かれており、配布しやすいこと。
- ・お粥のタイプなどがあり、災害時要援護者にも配慮したタイプがあることなど。

2. その他

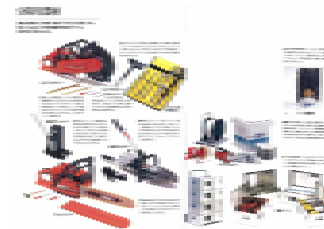
上記の食料品に加え、毛布等の被災者用物資や救助用資機材などを、三木全県拠点をはじめ西播磨・但馬・淡路・阪神南・丹波の各地域の広域防災拠点の備蓄倉庫に分散備蓄。



船外機付きボート



人命救助システム



災害発生時には、全国各地から物資や資機材が搬入され、これらの物資を被災地へ配送するための輸送拠点として、仕分けや荷さばきを行い、ヘリ臨時着陸場を活用することにより、円滑な輸送体制を確保。

救援物資搬送訓練



(イメージ写真)



応急活動要員の集結・宿泊・出動機能

7

災害発生時に、他地域から被災地へ救援・救助活動や復旧作業のために派遣された要員の活動拠点となり、県・市町の災害対策本部や防災関係機関と連携を図りながら、迅速かつ効率的な災害対策活動を行う。

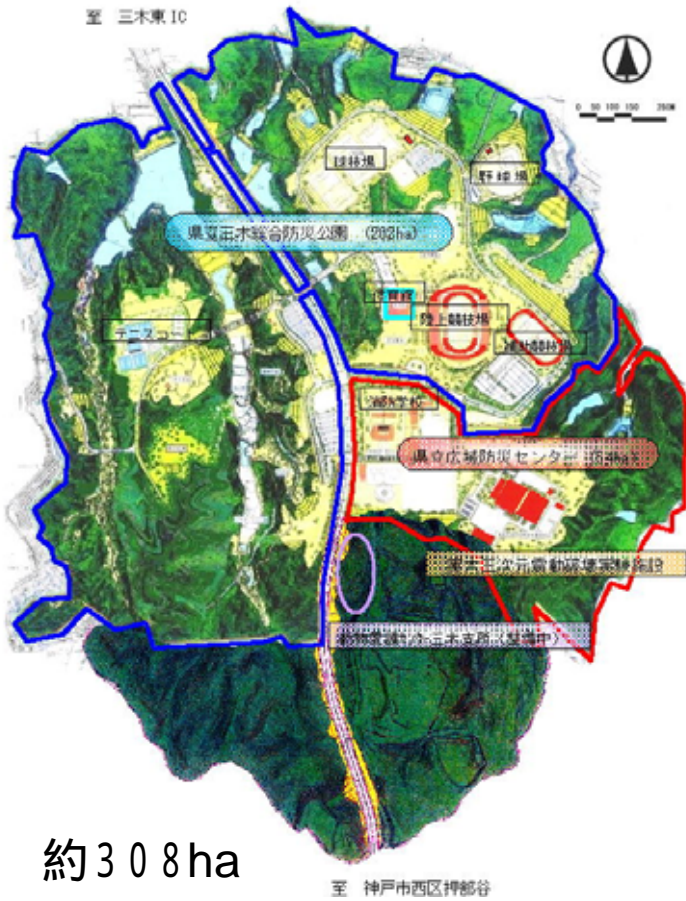


姫路の陸上自衛隊第3
特科隊の駐屯の状況



三木総合防災公園

平時は県民のスポーツ・レクリエーションや防災の教育・人材育成の場として、大規模災害時には全県広域防災拠点として、県内の被災地を支援。



約308ha



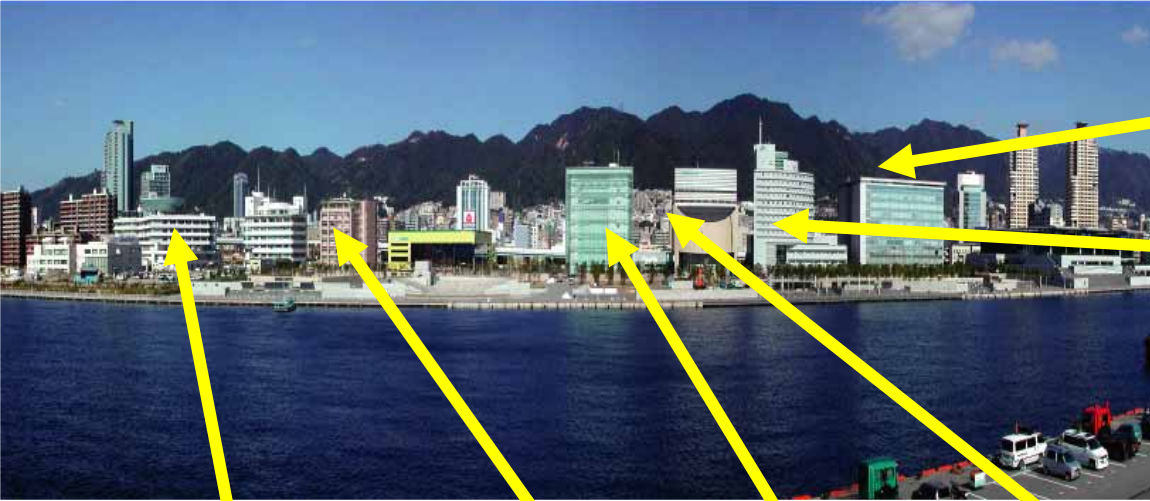
実大三次元震動破壊実験施設
(E-ディフェンス)

広域防災センター



備蓄倉庫

国際防災・人道支援拠点の形成・支援



WHO神戸センター

国際協力機構(JICA)
兵庫国際センター、国際防災研修センター

国連人道問題調整事務所神戸(OCHA)
国連国際防災戦略兵庫事務所(ISDR)
国際防災復興協力機構(IRP)
アジア防災センター(ADRC)
国連地域開発センター
防災計画兵庫事務所(UNCRD)
防災科学研究所地震防災フロンティア研究センター(EDM)
アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)
国際エメックスセンター
地球環境戦略研究機関(IGES)
ひょうご震災記念21世紀研究機構

神戸海洋気象台
(神戸防災合同庁舎内)

兵庫県災害医療センター
日赤兵庫県支部
こころのケアセンター

人と防災未来センター

国際関係機関

～ 災害文化の継承・発信 ～

上級研究員：10名、常勤研究員：11名

大震災の経験と教訓の展示

資料の収集・保存

専門家による調査研究

実戦的な防災人材育成

防災関係機関の交流ネットワーク

災害時における専門家の派遣

